

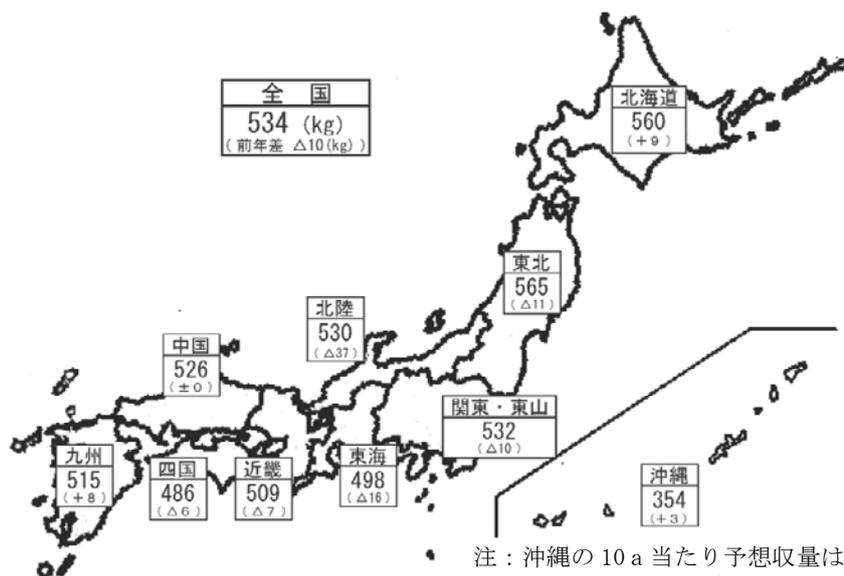
## 平成 29 年産水稲の作付面積及び 9 月 15 日現在における作柄概況

－ 主食用作付見込面積は 137 万 ha、10 a 当たり予想収量は 534kg の見込み －

### 【調査結果の概要】

- 1 平成 29 年産水稲の作付面積（青刈り面積を含む。）は 160 万 ha となり、前年産に比べ 1 万 1,000ha の減少が見込まれる。うち主食用作付見込面積は 137 万 ha となり、前年産に比べ 1 万 1,000 ha の減少が見込まれる。
- 2 9 月 15 日現在における水稲の作柄は、田植期以降おおむね天候に恵まれたため、全もみ数は一部を除き「平年並み」ないし「多い」となったものの、登熟は、東北太平洋側及び関東を中心に 7 月下旬から 8 月にかけての日照不足等の影響が見られたことから、全国の 10 a 当たり予想収量は 534kg となった。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は 100 となる見込み。
- 3 主食用作付見込面積に 10 a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は 731 万 3,000 t で、前年産に比べ 18 万 3,000 t の減少が見込まれる。

図 1 全国農業地域別 10 a 当たり予想収量（9 月 15 日現在）



- 主食用作付見込面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積（平成 29 年 9 月 15 日現在）を除いた面積（見込み）である。
- 10 a 当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70 mm のふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 本調査における作柄概況（9 月 15 日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。なお、台風第 18 号による影響は現在調査中である。

本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次の URL から御覧いただけます。

【 [http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/index.html#y3](http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y3) 】

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

◎ 累年データ

水稻の年次別推移（全国）

年産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a 当たり 収 量	収 穫 量 (子 実 用)	参 考		作況指数
	子実用				主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成9年産	1,950,000	1,944,000	515	10,004,000	…	…	102
10	1,800,000	1,793,000	499	8,939,000	…	…	98
11	1,786,000	1,780,000	515	9,159,000	…	…	101
12	1,768,000	1,763,000	537	9,472,000	…	…	104
13	1,711,000	1,700,000	532	9,048,000	…	…	103
14	1,693,000	1,683,000	527	8,876,000	…	…	101
15	1,670,000	1,660,000	469	7,779,000	…	…	90
16	1,704,000	1,697,000	514	8,721,000	…	…	98
17	1,709,000	1,702,000	532	9,062,000	…	…	101
18	1,692,000	1,684,000	507	8,546,000	…	…	96
19	1,678,000	1,669,000	522	8,705,000	…	…	99
20	1,637,000	1,624,000	543	8,815,000	1,596,000	8,658,000	102
21	1,637,000	1,621,000	522	8,466,000	1,592,000	8,309,000	98
22	1,657,000	1,625,000	522	8,478,000	1,580,000	8,239,000	98
23	1,632,000	1,574,000	533	8,397,000	1,526,000	8,133,000	101
24	1,641,000	1,579,000	540	8,519,000	1,524,000	8,210,000	102
25	1,647,000	1,597,000	539	8,603,000	1,522,000	8,182,000	102
26	1,639,000	1,573,000	536	8,435,000	1,474,000	7,882,000	101
27	1,623,000	1,505,000	531	7,986,000	1,406,000	7,442,000	100
28	1,611,000	1,478,000	544	8,042,000	1,381,000	7,496,000	103
29(見込み)	1,600,000	..	534	..	1,370,000	7,313,000	100

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。

2 10a 当たり（予想）収量及び（予想）収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積（平成29年9月15日現在）を除いた面積（見込み）である（以下同じ。）。

4 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。なお、平成26年産までは1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

5 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。

6 「…」は、未発表であることを示している。

## 【調査結果】

1 平成29年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は160万haで、前年産に比べ1万1,000haの減少が見込まれる。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた主食用作付見込面積は137万haで、前年産に比べ1万1,000haの減少が見込まれる。

2 9月15日現在における水稻の地域別の10a当たり予想収量は、北海道、東北、北陸、関東・東山及び東海では、田植期以降7月にかけておおむね天候に恵まれたことにより、全もみ数は一部を除き「平年並み」ないし「多い」となっているものの、7月下旬から8月にかけての日照不足等により登熟が平年を下回ると見込まれる地域があることから、北海道は560kg（前年産に比べ9kg増加）、東北は565kg（同11kg減少）、北陸は530kg（同37kg減少）、関東・東山は532kg（同10kg減少）、東海は498kg（同16kg減少）が見込まれる。

近畿以西では、生育期間を通じておおむね天候に恵まれたことにより、全もみ数は一部を除き「平年並み」ないし「多い」となっており、登熟もおおむね順調に推移していることから、近畿は509kg（前年産に比べ7kg減少）、中国は526kg（前年産と同値）、四国は486kg（前年産に比べ6kg減少）、九州は515kg（同8kg増加）が見込まれる。

この結果、全国の10a当たり予想収量は534kg（作柄が良かった前年産に比べ10kg減少）が見込まれる。

3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は731万3,000t（前年産に比べ18万3,000t減少）が見込まれる。

表 平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量  
（全国農業地域別）

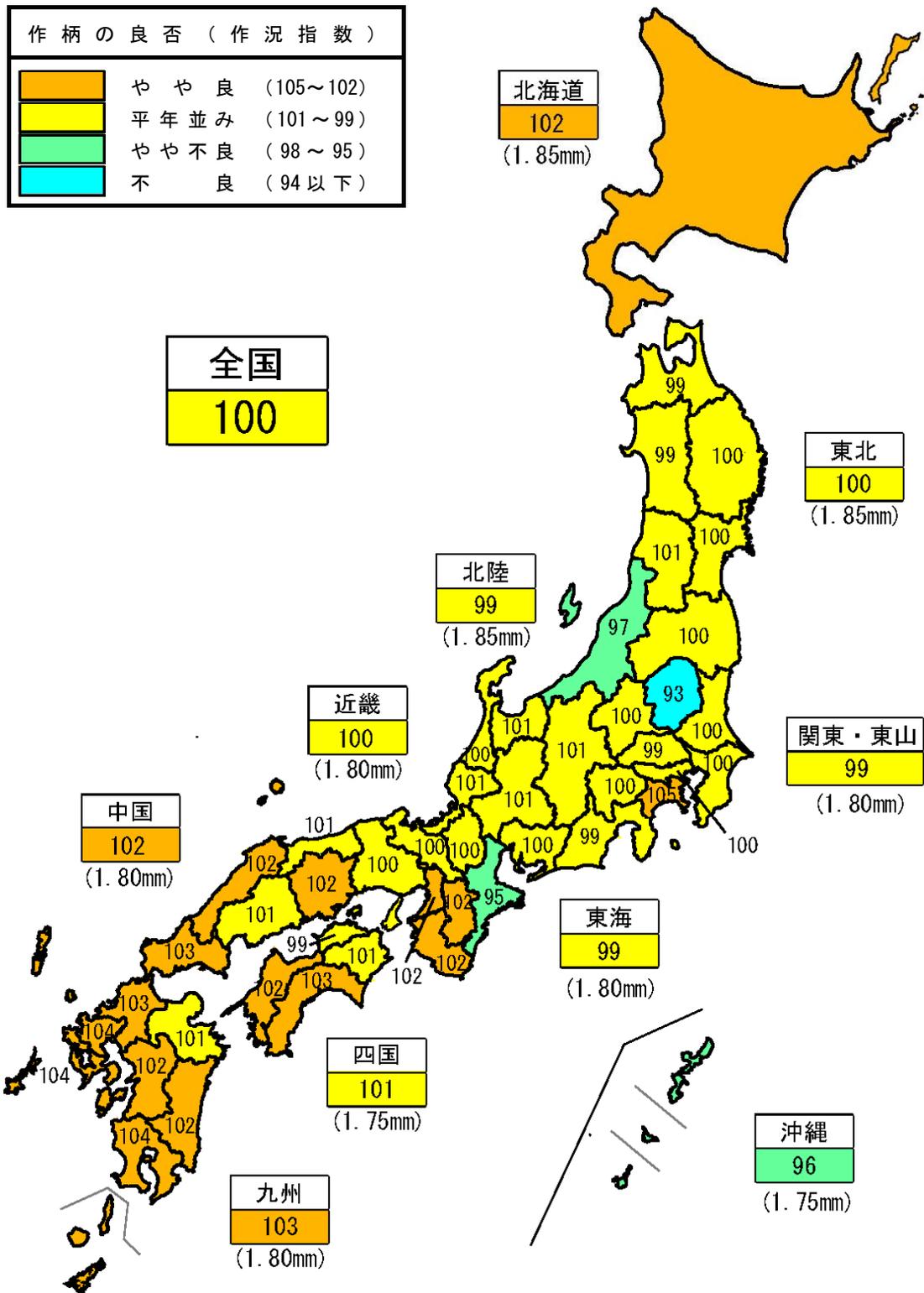
全国農業地域	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり予想収量			参 考	
	実 数	前年産との比較		実 数 ①	前年産との比較 対 差	主食用作付 見込面積 ②	予想収穫量 （主食用） ③=①×②	
		対 差	対 比					ha
全 国	1,600,000	△ 11,000	99	534	△ 10	1,370,000	7,313,000	
北 海 道	106,900	△ 1,400	99	560	9	98,600	552,200	
東 北	412,500	△ 1,500	100	565	△ 11	334,300	1,885,000	
北 陸	212,500	△ 900	100	530	△ 37	180,100	954,800	
関 東・東 山	300,700	△ 2,400	99	532	△ 10	257,400	1,370,000	
東 海	101,400	△ 600	99	498	△ 16	90,500	450,500	
近 畿	106,000	△ 1,000	99	509	△ 7	99,400	505,800	
中 国	111,700	△ 1,500	99	526	0	101,200	532,700	
四 国	52,900	△ 1,200	98	486	△ 6	49,500	241,300	
九 州	194,500	△ 1,000	99	515	8	158,700	818,500	
沖 縄	727	△ 58	93	...	...	727	2,250	

注：1 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 主食用作付見込面積及び予想収穫量（主食用）については都道府県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

3 沖縄県の10a当たり予想収量は第二期稲が出穂前であるため「…」で示しており、予想収穫量（主食用）の算出には10a当たり平年収量を用いた。

図2 全国農業地域・都道府県別作況指数（9月15日現在）  
【農家等が使用しているふるい目幅ベース】



注：1 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通期栽培を合算したものである。また、沖縄県の作況指数は、第一期稲である。

# 【統計表】

## 統計表一覧

ページ

- 1 平成 29 年産水稻の作付面積、10 a 当たり予想収量及び作柄概況（9 月 15 日現在）  
・・・・・・・・・・ 6
- 2 平成 29 年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9 月 15 日現在）  
・・・・・・・・・・ 8

## 利用上の注意

- 1 統計数値については、次表の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数		7 桁以上 ( 100万 )	6 桁 ( 10万 )	5 桁 ( 万 )	4 桁 (1,000)	3 桁以下 ( 100 )
四捨五入する桁数（下から）		3 桁	2 桁		1 桁	四捨五入 しない
例	四捨五入する前（原数）	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した後（統計数値）	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

- 2 表中に用いた記号は次のとおりである。  
「…」：事実不詳又は調査を欠くもの  
「△」：負数又は減少したもの
- 3 この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「平成 29 年産水稻の作付面積及び 9 月 15 日現在における作柄概況」（農林水産省）による旨を記載してください。

1 平成29年産水稻の作付面積、10a当たり予想収量及び作柄概況（9月15日現在）

全 国 都道府県	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり 予想収量 ①	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別		
	実 数	前年産との比較			10a当たり 予想収量 ②	10a当たり 平年収量 ③	作 況 指 数 ④=②/③
		対 差	対 比				
	ha	ha	%	kg	kg	kg	
全 国 (1)	1,600,000	△ 11,000	99	534	519	518	100
北 海 道 (2)	106,900	△ 1,400	99	560	543	530	102
青 森 (3)	50,500	△ 200	100	593	569	573	99
岩 手 (4)	56,100	△ 500	99	538	524	522	100
宮 城 (5)	74,700	100	100	539	521	519	100
秋 田 (6)	91,000	△ 600	99	573	552	556	99
山 形 (7)	69,300	△ 400	99	599	586	580	101
福 島 (8)	71,000	200	100	549	529	527	100
茨 城 (9)	77,200	△ 600	99	526	514	515	100
栃 木 (10)	69,400	△ 100	100	510	493	529	93
群 馬 (11)	17,600	△ 300	98	494	478	479	100
埼 玉 (12)	34,000	△ 700	98	483	469	475	99
千 葉 (13)	61,300	△ 300	100	544	529	528	100
東 京 (14)	141	△ 10	93	412	403	404	100
神 奈 川 (15)	3,110	△ 20	99	520	500	478	105
新 潟 (16)	120,900	△ 400	100	528	513	527	97
富 山 (17)	39,100	△ 200	99	548	530	527	101
石 川 (18)	26,100	△ 300	99	519	505	507	100
福 井 (19)	26,300	0	100	525	504	500	101
山 梨 (20)	4,980	△ 40	99	548	533	533	100
長 野 (21)	32,900	△ 400	99	628	616	607	101
岐 阜 (22)	25,200	△ 100	100	490	481	478	101
静 岡 (23)	17,300	△ 100	99	518	508	513	99
愛 知 (24)	29,400	△ 300	99	510	501	499	100
三 重 (25)	29,500	△ 100	100	480	466	489	95
滋 賀 (26)	32,900	△ 100	100	517	504	506	100
京 都 (27)	14,900	△ 200	99	511	503	502	100
大 阪 (28)	5,160	△ 160	97	506	490	480	102
兵 庫 (29)	37,700	△ 300	99	497	487	489	100
奈 良 (30)	8,730	△ 100	99	522	510	500	102
和 歌 山 (31)	6,560	△ 160	98	507	492	484	102
鳥 取 (32)	14,100	△ 100	99	521	511	504	101
島 根 (33)	19,200	△ 200	99	519	511	500	102
岡 山 (34)	32,200	△ 200	99	538	524	514	102
広 島 (35)	24,800	△ 300	99	528	519	513	101
山 口 (36)	21,500	△ 500	98	519	509	492	103
徳 島 (37)	12,500	△ 200	98	479	475	469	101
早期栽培 (38)	4,960	△ 40	99	481	477	459	104
普通栽培 (39)	7,530	△ 180	98	479	474	475	100
香 川 (40)	13,200	△ 500	96	491	485	490	99
愛 媛 (41)	14,500	△ 200	99	506	500	492	102
高 知 (42)	12,800	△ 100	99	470	466	454	103
早期栽培 (43)	7,370	△ 30	100	498	495	477	104
普通栽培 (44)	5,410	△ 120	98	433	429	426	101
福 岡 (45)	39,200	△ 100	100	510	492	477	103
佐 賀 (46)	26,400	0	100	541	525	503	104
長 崎 (47)	12,900	△ 300	98	500	482	463	104
熊 本 (48)	42,400	0	100	525	509	497	102
大 分 (49)	25,000	△ 200	99	508	487	480	101
宮 崎 (50)	23,500	△ 200	99	505	492	482	102
早期栽培 (51)	8,950	△ 90	99	494	486	470	103
普通栽培 (52)	14,600	0	100	513	496	490	101
鹿 児 島 (53)	24,900	△ 400	98	502	489	469	104
早期栽培 (54)	6,490	△ 130	98	472	464	434	107
普通栽培 (55)	18,500	△ 100	99	510	496	478	104
沖 縄 (56)	727	△ 58	93	...	...	305	...
第一期稲 (57)	537	△ 23	96	354	350	363	96
第二期稲 (58)	190	△ 35	84	...	...	...	...

注：1 ①10a当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。  
 2 （参考）農家等が使用しているふるい目幅で選別の②10a当たり予想収量、③10a当たり平年収量及び④作況指数については、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。  
 3 沖縄県平均の10a当たり予想収量並びに（参考）農家等が使用しているふるい目幅で選別の10a当たり予想収量及び作況指数は第二期稲が出穂前であるため「…」で示しており、沖縄県計の予想収量（主食用）の算出には10a当たり平年収量を用いた。

参 考		平 年 比 較				
主食用作付見込面積	予想収穫量（主食用）	穂数の多少	1 穂 当 た り の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登熟の良否	
⑤	⑥=①×⑤					
ha	t					
1,370,000	7,313,000	…	…	…	…	(1)
98,600	552,200	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良	(2)
38,000	225,300	平年並み	多 い	多 い	不 良	(3)
47,000	252,900	平年並み	平年並み	やや多い	やや不良	(4)
63,500	342,300	やや多い	平年並み	多 い	やや不良	(5)
69,500	398,200	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(6)
56,400	337,800	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	(7)
59,900	328,900	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(8)
66,400	349,300	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(9)
53,600	273,400	多 い	やや少ない	平年並み	不 良	(10)
13,900	68,700	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(11)
30,700	148,300	やや多い	やや少ない	やや多い	やや不良	(12)
53,300	290,000	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(13)
141	581	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(14)
3,090	16,100	多 い	やや多い	多 い	やや不良	(15)
100,300	529,600	平年並み	少 ない	やや少ない	やや良	(16)
33,300	182,500	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良	(17)
23,200	120,400	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(18)
23,300	122,300	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(19)
4,880	26,700	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み	(20)
31,300	196,600	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(21)
21,500	105,400	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み	(22)
15,600	80,800	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(23)
26,600	135,700	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(24)
26,800	128,600	やや多い	少 ない	やや少ない	やや不良	(25)
30,000	155,100	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(26)
14,100	72,100	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(27)
5,150	26,100	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	(28)
35,100	174,400	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(29)
8,580	44,800	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み	(30)
6,560	33,300	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	(31)
12,400	64,600	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良	(32)
17,200	89,300	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み	(33)
29,100	156,600	多 い	やや少ない	平年並み	平年並み	(34)
23,100	122,000	多 い	少 ない	平年並み	平年並み	(35)
19,300	100,200	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み	(36)
11,300	54,100	…	…	…	…	(37)
…	…	多 い	やや少ない	多 い	やや不良	(38)
…	…	やや多い	少 ない	やや少ない	やや良	(39)
12,800	62,800	やや少ない	やや少ない	やや少ない	やや良	(40)
13,900	70,300	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み	(41)
11,500	54,100	…	…	…	…	(42)
…	…	多 い	やや少ない	多 い	やや不良	(43)
…	…	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(44)
35,100	179,000	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み	(45)
24,400	132,000	多 い	やや少ない	多 い	やや不良	(46)
11,600	58,000	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良	(47)
32,200	169,100	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み	(48)
20,900	106,200	平年並み	平年並み	やや多い	やや不良	(49)
15,000	75,800	…	…	…	…	(50)
…	…	やや多い	やや少ない	やや多い	やや良	(51)
…	…	平年並み	やや少ない	やや少ない	やや良	(52)
19,600	98,400	…	…	…	…	(53)
…	…	やや多い	やや多い	多 い	やや良	(54)
…	…	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み	(55)
727	2,250	…	…	…	…	(56)
…	…	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	(57)
…	…	…	…	…	…	(58)

4 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積（平成29年9月15日現在）を除いた面積（見込み）である。

5 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の早期・普通期別等の主食用作付見込面積は、作期別に備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。

6 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の県平均の「穂数の多少」以降の指標は、調査を早期・普通期別等に行っており県平均を取りまとめているため、「…」で示している。

## 2 平成29年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9月15日現在）

都道府県	出穂期						刈取済面積割合
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較			
				対平年差	対前年差		
月 日	月 日	月 日	...	...	...	%	
全 国	...	...	...	...	...	27	
北海道	7. 25	7. 31	8. 6	並み	2日早	2	
青森	8. 2	8. 6	8. 12	1日遅	1日遅	0	
岩手	8. 1	8. 6	8. 12	並み	並み	0	
宮城	7. 29	8. 1	8. 11	2日早	1日早	0	
秋田	8. 3	8. 6	8. 13	2日遅	2日遅	0	
山形	8. 3	8. 7	8. 14	1日遅	1日遅	0	
福島	8. 2	8. 9	8. 18	1日早	並み	0	
茨城	7. 15	7. 27	8. 10	4日早	3日早	61	
栃木	7. 22	7. 28	8. 17	4日早	3日早	26	
群馬	8. 8	8. 19	8. 31	1日早	並み	3	
埼玉	7. 21	8. 8	8. 29	3日早	2日早	30	
千葉	7. 11	7. 22	8. 2	2日早	1日早	93	
東京都	8. 5	8. 13	8. 30	2日早	2日早	1	
神奈川県	7. 30	8. 11	8. 20	1日早	2日早	6	
新潟	7. 27	8. 6	8. 14	並み	2日遅	26	
富山	7. 20	8. 2	8. 12	並み	2日遅	60	
石川	7. 17	7. 29	8. 4	1日早	2日遅	70	
福井	7. 13	7. 30	8. 12	3日早	2日早	77	
山梨	8. 1	8. 9	8. 28	1日早	2日遅	12	
長野	7. 29	8. 5	8. 14	2日早	1日早	12	
岐阜	7. 20	8. 20	9. 3	並み	2日遅	26	
静岡	7. 19	8. 5	8. 30	4日早	1日早	41	
愛知	7. 23	8. 17	9. 5	1日早	並み	30	
三重	7. 14	7. 23	8. 9	1日早	2日遅	91	
滋賀	7. 23	7. 29	8. 16	4日早	1日早	61	
京都	7. 22	8. 1	8. 16	3日早	1日早	41	
大阪	7. 31	8. 23	8. 31	1日早	1日遅	10	
兵庫	7. 26	8. 9	8. 30	4日早	3日早	38	
奈良	7. 31	8. 23	8. 29	1日早	1日早	16	
和歌山	7. 18	8. 7	8. 24	1日早	1日遅	46	
鳥取	7. 23	8. 2	8. 17	5日早	3日早	26	
島根	7. 18	7. 27	8. 16	6日早	1日早	48	
岡山	7. 29	8. 18	9. 2	2日早	並み	24	
広島	7. 22	8. 5	8. 25	3日早	3日早	41	
山口	7. 28	8. 7	8. 26	3日早	1日早	41	
徳島 早期栽培	7. 6	7. 13	7. 25	3日早	並み	100	
普通栽培	7. 21	7. 30	8. 27	1日早	並み	69	
香川	7. 20	8. 19	9. 1	3日早	1日早	39	
愛媛	7. 17	8. 12	9. 1	2日早	1日遅	44	
高知 早期栽培	6. 25	7. 1	7. 11	4日早	1日遅	100	
普通栽培	8. 11	8. 17	8. 25	2日早	1日早	3	
福岡	8. 1	8. 21	9. 4	2日早	1日早	21	
佐賀	7. 19	8. 26	9. 10	3日早	並み	11	
長崎	7. 15	8. 24	9. 3	3日早	並み	14	
熊本	7. 14	8. 21	9. 5	2日早	並み	9	
大分	7. 29	8. 23	9. 2	4日早	並み	4	
宮崎 早期栽培	6. 21	6. 28	7. 3	2日遅	7日遅	100	
普通栽培	8. 17	8. 24	9. 2	1日早	1日遅	0	
鹿児島 早期栽培	6. 16	6. 29	7. 15	2日遅	7日遅	100	
普通栽培	8. 17	8. 24	9. 5	3日早	2日遅	0	
沖縄 第一期稲	5. 11	5. 25	6. 4	2日遅	2日遅	100	

注：出穂期の始期、最盛期、終期とは、出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。

## 【調査の概要】

### 1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び作柄概況調査として実施したものであり、水稻の作付面積、作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

### 2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に実施している。

### 3 調査対象数

#### (1) 作付面積調査

標本単位区：39,369 単位区

#### (2) 作柄概況調査

作況標本筆：10,248 筆 作況基準筆：576 筆

### 4 調査事項

水稻の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

### 5 調査期日

(1) 作付面積調査：平成 29 年 7 月 15 日現在

(2) 作柄概況調査：平成 29 年 9 月 15 日現在

### 6 調査・集計方法

#### (1) 作付面積調査

職員又は統計調査員による標本単位区に対する実測調査により行った。なお、職員による巡回・見積りにより実測調査結果を補完して取りまとめている。

#### (2) 作柄概況調査

職員又は統計調査員による作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査により行った。なお、職員又は統計調査員による巡回・見積りにより実測調査結果を補完して取りまとめている。

### 7 実績精度

作付面積調査の対地標本実測調査における水稻作付面積に係る調査結果（全国）の実績精度（標準誤差率の推定値）は、次のとおりである。

区 分	標準誤差率 (%)
水稻作付面積	0.34

注：標準誤差率 (%) = 標準誤差の推定値 ÷ 推定値 × 100

### 8 用語の解説

(1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WC S用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指す。

(2) 「穂数の多少」とは、1 m<sup>2</sup>あたりに出穂した全ての穂の数が平年と比較し

て多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。

- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (6) (2)から(5)までの平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較である。

多 少 ( 良 否 )	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (7) 「作況指数」とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率である。

なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していたが、平成27年産以降の作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

全国農業地域名	所 属 都 道 府 県 名	農家等使用目幅
北 海 道	北海道	1.85mm
東 北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	1.85mm
北 陸	新潟、富山、石川、福井	1.85mm
関 東・東 山	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野	1.80mm
東 海	岐阜、静岡、愛知、三重	1.80mm
近 畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	1.80mm
中 国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	1.80mm
四 国	徳島、香川、愛媛、高知	1.75mm
九 州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	1.80mm
沖 縄	沖縄	1.75mm

- (8) 「10a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10a 当たり収量をいう。

## 9 その他

- (1) この資料のうち作付面積の数値は、概数値である。  
 確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（平成30年2月予定）するとともに、その後刊行する「平成29年耕地及び作付面積統計」に掲載する。  
 なお、確定した詳細な数値をホームページに掲載した後の正誤情報は、ホ

ホームページでお知らせする。

- (2) 本調査における作柄概況（9月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

#### 【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼肥料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

【 [http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/index.html#y3](http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y3) 】

#### 【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞政策統括官

[http://www.maff.go.jp/j/seisaku\\_tokatu/](http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/)

#### お問合せ先

##### ◎本統計調査結果について

- ・作付面積に関すること

農林水産省 大臣官房統計部  
生産流通消費統計課 面積統計班  
電話：（代表）03-3502-8111 内線3681  
（直通）03-6744-2045  
FAX：03-5511-8771

- ・作柄概況に関すること

生産流通消費統計課 普通作物統計班  
電話：（代表）03-3502-8111 内線3682  
（直通）03-3502-5687  
FAX：03-5511-8771

##### ◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部  
統計企画管理官 広報普及班  
電話：（代表）03-3502-8111 内線3589  
（直通）03-6744-2037  
FAX：03-3501-9644



**政府統計**

政府統計の総合窓口  
(e-Stat)

<http://www.e-stat.go.jp/>